

林野庁 北海道森林管理局
常呂川森林ふれあい推進センター

平成 27 年度年報

オホーツクの『森』から



秋のしらかば十字園

発刊に当たり

オホーツク地方は、世界自然遺産「知床」や網走国定公園など、自然環境に恵まれ貴重な動植物を育む地域です。

常呂川森林ふれあい推進センターは、オホーツク最大の河川である常呂川流域を中心に自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育等に取り組む企業・団体・NPO等を支援しています。

平成 27 年度の主な活動内容をまとめましたのでご覧下さい。

自然再生モデル事業の取り組み

< 自然再生モデル事業企画運営協議会 >

オホーツクの森自然再生モデル事業企画運営協議会は、平成 17 年 10 月に発足し、毎年、自然再生モデル林で実施した活動について報告するとともに、モデル林で現地検討会を行い今後の森林の取り扱いを議論しています。

平成 17 年からは、モニタリング調査を実施し、自然再生が進む森林の状況を把握しています。

平成 19 年からは、樹種転換地域でカミネッコ植樹を実施しています。



また、平成 20 年からは、自動撮影装置を設置して野生生物の調査も行っています。

平成 27 年度は 11 月と 3 月に協議会が開催され、目指している針広混交林とは、どのような森林なのか、モデルを示してイメージの可視化を検討しました。



また、間伐などの森林整備は、網走中部森林管理署と連携を図り、相談しながら進めています。

当センターには、人工林を一世代前の針広混交林に近づける方策の検討という自然再生モデル事業の最終目標があり、協議会では、自然再生モデル林を針広混交林に導くための計画を現地検討しながら議論していくこととなります。

もり 〈森林づくり塾〉



森林づくり塾は、地域の森林づくり支援者の拡充を目指して、平成21年から毎年実施しています。

今年度は、天然林と人工林の違いを理解してもらい、人工林を針広混交林に導く自然再生事業をわかりやすく説明するため募集の名称を工夫し、2回計画しました。

7月5日（日）の「森林づくり塾」では、「古の森と森林再生を学ぶ」と題して、15名の参加により天然林（針広混交林）と自然再生モデル林を観察しました。

午前中は、「古の森」で天然林の役割について学び、午後からは、自然再生事業地を案内して、ボランティアの助けを借りながら進めていることを説明しました。

2回目は、1回目の参加者を中心に9月19日（土）にカミネッコン箇所の保全をお手伝いしてもらう予定でしたが、残念ながら雨のため中止になりました。



森林に親んでもらった人の中から森林の再生に興味をもってくれる人が一人でも多くなり、将来的には、ボランティア活動などに参加してくれる人が増えてくれればと願っています。

次年度においても、引き続き取り組んでいきます。

もり ＜オホーツクの森林づくり＞

6月28日（日）、森林ボランティア「オホーツクの会」（以下「オホーツクの会」という）の会員や一般参加者による森林づくり活動を実施しました。

今回は植えた後の手入れの重要性を皆さんに理解してもらうため、植樹した木の成長を促す下刈作業やシカの食害から守るための防護シートの補修及び木の成長に合わせた添え木の設置を行いました。



また、この植樹地域の歩道の草刈も併せて行い、植樹場所へのアクセスも容易となり、以降の作業がしやすくなりました。



植樹した広葉樹は、みなさんのおかげで年々成長しています。

また、午後からは富里湖森林公園へ移動し、遊歩道を散策しました。

ジンヨウイチヤクソウやサイハイランなどを観察するとともに展望台からの見晴らしを楽しみました。

＜モニタリング調査＞

モニタリング調査は、自然再生モデル林内で平成17年から平成26年までの間に6回実施しています。（平成27年度は、実施できませんでした。）

調査内容は、林分構造及び樹幹疎密度の変化や稚幼樹及び下層植生の変化を調べる植物調査、ほ乳類や鳥類の種類変化を調べる動物調査、魚類や底生動物（ニホンザリガニなど）を調べる水棲生物調査などです。

平成17年から26年までに行ったモニタリング調査のデータを比較して経年の変化が分かるようにグラフや表にまとめ広く公表しています。

<野生動物自動撮影（7月・10月実施）>

今年度からデジタルカメラを導入し、24時間撮影ができるようになったことから明るい写真が増えました。

今年度は、エゾタヌキやエゾシカ、キタキツネ、エゾリスなど、9種の動物を確認することができ、しばらくぶりにヒグマも撮影されました。

森林が豊かになり、自然再生が進み、餌になるものが増えてきたのでしょうか。



エゾシカ



エゾタヌキ



キタキツネ



ヒグマ



ツグミ



エゾリス

※森林総合研究所北海道支所のHP
(<http://cse.ffpri.affrc.go.jp/hiroh/wildlife-monitoring/index.html>)
で、北海道の野生生物の観測結果を見ることができます。

森林環境教育の取り組み

＜ボランティア育樹＞

6月29日（月）、常呂小学校、端野小学校、常呂漁協、一般市民など、174名の参加により「第12回オホーツクの森ボランティア育樹」（実行委員会主催）を行いました。

今年は、一昨年、昨年に引き続き、アカエゾマツ人工林（昭和61年植栽）の枝払いをしました。



小学生にはグループごとに北林会や「オホーツクの会」のメンバーがついて、安全確認、ノコの使い方などの指導協力をいただきました。

初めのうちはノコの扱いにとまどいながらも段々と慣れ「もっと切りたかった」「スッキリしてきれいになったね」などの声も

聞かれました。

午後からは、「古の森」で森林散策、樹齢およそ400年のハルニシや倒木更新などを観察しながら森林の働き、営み、恵み（山菜）を学び、リフレッシュしました。



<日本赤十字北海道看護大学 フィールドワーク>

6月5日（金）、日本赤十字北海道看護大学からの要請を受け、「オホーツクの会」の協力のもと、一年生59名を対象に野付牛公園で屋外授業（フィールドワーク）を実施しました。

小雨模様かつ4月中旬並みの気温という悪条件でしたが、学生たちの若さと「オホーツクの会」の皆さんのパワーで乗り切ることができました。



このフィールドワークは、「身近な自然を見つめ直すこと」を目的に行っているもので、途中、ネイチャーゲームを交えながら、およそ2時間にわたり公園を散策し、植物の生きるための工夫、虫や鳥、動物などとの関わりを学びました。

参加した学生からは「ゲームが楽しかった」「普段、何気なく見ているものにも色々な特徴があることを知った」などの感想が寄せられました。

<こども探検隊>

7月25日（土）、「オホーツクの会」の協力のもと、「オホーツクの森こども探検隊」を行いました。

探検地図を片手に、市内の小学生16名が4班に分かれて森林に入り、「セミの



抜け殻」「キツツキの穴」を探す、トランシーバーで交信などのミッションに挑戦しました。



また、立木を利用したブランコやターザンロープ、丸太切り体験、落ち葉のステンドグラス作りなど、自然の中で夏休みの一日を楽しみました。

＜森林教室＞

6月20日（土）、遠軽町生田原教育センターの要請を受けて、「キッズ／チャレンジクラブ」として、小学生16名を対象にオホーツクの森で「森林教室」を実施しました。

当日は、「オホーツクの会」の協力を得て、森林散策・ターザンロープ・丸太切りなど、自然を楽しみました。



9月9日（水）、常呂小学校5年生26名を対象に森林教室を行いました。

「食物連鎖のピラミッド作り」で身体を動かした後、教室で「事前に出された質問への答えを中心とした話」「学校にある木でできているものを考える」など、森林と人間の関わりを学びました。

＜山の日制定記念＞

8月30日（日）、平成28年から祝日となる山の日（8月11日）制定を記念して「山に親しみ山の恵みに感謝すること」を目的に30名の参加により『幌岩山森林散策』を行いました。

佐呂間町浪速の登山道を展望台まで約1.8 km、昼食を挟んで頂上付近の約0.5 kmをクマガウの食痕やツルアジサイ・イワガラミなどの植物を観察しながら散策しました。

天候にも恵まれ、展望台からはサロマ湖、オホーツク海だけでなく、遠く知床連山まで見通すことができました。



参加者からは、「単なる登山会だと思っていましたが、植物や自然の話などがありとっても楽しかったです。」などの感想がありました。

＜企業・団体支援＞

9月5日（土）、北辰土建（株）の要請を受け、ボーイスカウト北見第2団の皆さんも参加した「植樹活動・オホーツクの森づくり」を支援しました。



これは、企業としての社会貢献と合わせて、地球温暖化防止等の環境保全、緑化活動等を通じた社員の意識づくりのために平成21年から実施されているものです。

今年は、カミネッコン植樹（ミズナラ）を行ったあと、マツボックリや木の枝を使ったクラフト作成、ロケットラワンで年齢を忘れて遊びました。

9月26日（土）、オホーツク森の案内友の会の要請を受けて、藻琴山（標高1000m）登山会&自然観察会のガイドを行いました。



銀嶺荘～藻琴山～小清水高原というルートをたどりながら植生の変化や景色を楽しみました。

残念ながら、頂上付近は霧に覆われて真っ白でしたが、途中の尾根からは屈斜路湖を見ることができました。

また、ボランティア団体の行う自然観察・森林散策会等の支援活動を行いました。

**常呂川森林ふれあい推進センターでは、学校、企業、団体などの森林づくりや森林散策などの活動支援を行っています。
気軽にお問い合わせ下さい。**

その他の取り組み

<パネル展示等でオホーツクの森をPR>

オホーツクの森林・自然や当センターの活動などを知ってもらうため、「オホーツクの会」の協力も得てパネル展示やクラフト作成などの取り組みを行っています。

【緑と花の春の園芸祭】

5月1～10日

フラワーパラダイス隣接ハウス

【オホーツク「木」のフェスティバル】

5月22～24日

サンドーム北見

【おけと湖水まつり】

7月26日 置戸町「おけと湖畔」

【森林フェスティバル】

9月12～13日 網走市「こまば木のひろば」

【森へおいでよ！パネル展】

10月3～11日 北見市緑のセンター

【道民森づくりネットワークの集い2015】

10月18日 野幌森林公園



オホーツク木のフェスティバル



<緑の普及活動>

緑の街頭募金活動（4月23日）、北見市民植樹祭（5月17日）、オホーツク総合振興局東部森林室との意見交換会（8月28日）、ワッカ原生花園での外来種（イタチハギ）駆除活動（9月17日）、北の国・森林づくり技術交流発表会への参加（2月4・5日）など、森林づくりに関わる取り組みや緑の普及活動などの取り組みを進めてきました。

